

プロ野球春季キャンプが地元高校野球部の練習態度とモチベーションに与える影響
Impacts of attitude of practice and motivation to baseball club of local high school by spring training camp of professional baseball

1K08B135-9 中上 英之

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 間野義之 先生

[目的]

沖縄県では、多くのプロ野球春季キャンプが実施されている。2011年のキャンプでは、今まで以上に注目されたであろう。今まで実施されていなかった読売巨人軍による那覇キャンプが始まったこと・早稲田大学出身のハンカチ王子こと斎藤祐樹選手が日本ハムファイターズに入団し、キャンプに参加したことなどが、2011年のプロ野球春季キャンプを注目させたであろう要因として挙げられる。沖縄県の琉球銀行総合研究所によると、2010年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプによる経済効果が54億9400万円であったのに対し、2011年では約101億円という予測が出ている。

また、近年沖縄県出身の選手による活躍が目立ってきている。1999年沖縄尚学高校が春の甲子園を正しはすると、2008年には同校による春の甲子園優勝、2010年には興南高校による甲子園春夏連覇を成し遂げた。

そこでプロ野球春季キャンプが沖縄県の高校野球部員に影響を与えているのではないかと考え、プロ野球春季キャンプについての調査を行った。本研究の目的として以下の3点を設定した。

- 1、地元高校生野球部員に与えた練習に対する動機を明確にすること
- 2、キャンプへの満足要因と野球に対するモチベーションの関係性を明確にすること
- 3、高校生・プロ野球球団にとって、より有効なプロ野球春季キャンプとなるような提言を行うこと

[方法]

質問紙調査を用い、分析はSPSSによる主成分分析・相関分析・重回帰分析を使用した。

- 1、調査対象：沖縄県内の高校9校
- 2、調査方法：質問紙を対象校に送り、回答し送っていただいた。
- 3、調査期間：9月21日～11月17日
- 4、サンプル数：368（有効回答数368）

[結果]

主成分分析の結果、満足要因に関しては6項目、練

習態度に関しては5項目に分けた。キャンプに関しての満足要因とモチベーションの相関では、「選手の能力」、「心地よさ」に満足することによって、部員のモチベーションが上がるという結果を得た。その中でも特に、「選手の守備力」との間で最も強い正の相関が見られ、「打球の伸び」では、強い負の相関が見られた。加えて「心地よさ」では、「イケメン選手がいる」ということに関して最も相関が見られた。また、満足要因と練習態度の相関では、「選手の能力・雰囲気」と「成績や時間」、「日常生活」、「親近感」と「投影」、「非日常性」と「投影」の3項目で見ることが出来た。

一方で、キャンプに参加しなかった理由で最も多く得られた項目は、「学校の日程が合わない」であった。

[考察]

キャンプに関しての満足要因と練習態度の相関結果から、テレビでは当たり前のように映っているプロ野球選手のプレーでも、自分のプレーと比較し、自分でも動きを真似出来るということで、高校野球部員のモチベーションを上げているのではないだろうか。また「打球の伸び」という項目は、体の大きさ・筋力量などによって大きく左右されるため、比較的真似出来る部分が少ないのではないだろうか。それ故に、満足することに留まり、モチベーションとは負の相関を持つものと考えられる。

近年では、メディアを巻き込んだイケメンであり、かつ能力の高い選手がプロ野球では増えてきている。イケメン選手は単にイケメンというだけではなく、それに、加えて優秀な成績を出していることも必要ではないだろうか。イケメンだけに満足しているのではなく、自分たちが行っているスポーツでトップクラスの能力を持ち合わせているイケメン選手を見ることで、モチベーションを上げることができるのではないだろうか。

今後の課題としては、イケメン選手によるパフォーマンス・練習時間や期間をずらすことにより、キャンプへの参加率を増加させ、高校野球球児・プロ野球球団両方にとってより良いプロ野球春季キャンプを実施していくことが求められるのではないだろうか。